



福岡県 がん教育指導資料集

令和2年2月

福岡県教育委員会

はじめに

近年、都市化、少子高齢化、情報化などによる社会環境や生活環境の急激な変化は、国民の心身の健康にも大きな影響を与えており、ストレスによる心身の不調などのメンタルヘルスに関する課題、アレルギー疾患、感染症など、新たな課題が顕在化しています。その中でも、生涯のうち国民の2人に1人がかかると推測されるがんは重要な課題であり、健康に関する基礎的教養として身に付けておくべきものとなっています。

国においては、平成19年4月に「がん対策基本法」が施行（平成28年12月一部改正・施行）され、その中で、がんに関する知識及びがん患者に関する理解を深めることができるよう、学校教育におけるがん教育の推進が示されました。

また、改訂された中学校及び高等学校の学習指導要領解説保健体育編に、「がんについても取り扱うものとする」と明記されるなど、がん教育を健康教育の一環として取り扱うことが求められています。

福岡県教育委員会においても平成26年度から文部科学省の委託を受け、がん教育総合支援事業において、がん教育推進委員会を設置するとともに、がん教育の実践研究に取り組みました。平成29年には「福岡県がん教育推進事業実践事例集」、平成30年には「学校におけるがん教育を推進するためのQ&A集」を作成、配布するなど、がん教育の普及啓発を推進してまいりました。

本年度は、学校教育におけるがん教育をさらに推進するため、各教科や特別の教科道徳、特別活動等におけるがん教育の進め方や外部講師を活用した効果的ながん教育の実践について参考となる指導資料を作成いたしました。

是非、本書を御活用いただき、各学校におけるがん教育をより一層推進していただくようお願いいたします。

終わりに、作成に当たり、御協力いただいた福岡県がん教育指導資料作成委員会の皆様をはじめ、関係各位に厚くお礼申し上げます。

令和2年2月

福岡県教育委員会

目次

1	がん教育の必要性	1
2	がん教育の目標と内容及び留意点	3
3	指導資料	8
(1)	がん教育の年間指導計画例	8
(2)	小学校における指導資料	
	小学校における指導例	9
	・ 体育科	10
	・ 特別の教科道徳	11
	・ 特別活動(養護教諭とのチームティーチング)	15
(3)	中学校における指導資料	
	中学校における指導例	17
	・ 保健体育科	18
	・ 特別の教科道徳	19
	・ 特別活動	23
(4)	高等学校における指導資料	
	高等学校における指導例	24
	・ 保健体育科	26
	・ 家庭科	27
	・ 特別活動(外部講師：がん経験者)	28
(5)	参考資料	30
4	外部講師を活用したがん教育の進め方	41
5	参考資料の活用について	44
◇	平成30年度・令和元年度	
	福岡県がん教育推進委員会	52
◇	平成30年度・令和元年度	
	福岡県がん教育指導資料作成委員会	53
◇	引用資料・参考資料	54

1 がん教育の必要性

がんは日本人の死因の第1位であり、がんは重要な健康課題となっています。そのため、学校における健康教育においてがんを取り上げた教育を推進することは健康教育を推進する上で意義のあることであると考えられます。しかしながら、がんそのものの理解やがん患者に対する正しい認識を深める教育は不十分であると指摘されており、学校におけるがん教育を通じて、児童生徒が健康に対する関心をもち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにすることが求められています。

そこで国は、法を整備し、その法に基づき国及び県は各計画を策定し、その各計画のもと、下記の取組を実施しています。

※○は法及び計画、●は取組を示しています。

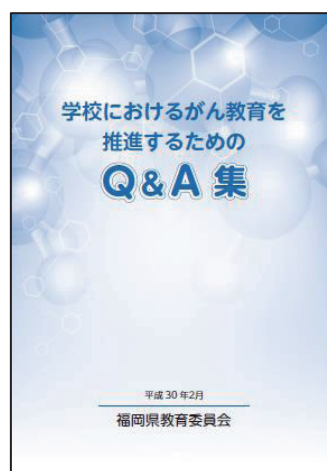
年度	国の取組	県の取組
平成 18 年度	○がん対策基本法（成立）	
平成 19 年度	○がん対策基本法（施行） ○第1期がん対策推進基本計画 （～平成 23 年度）	
平成 20 年度		○第1期福岡県がん対策推進計画 （～平成 24 年度） ※がん対策を総合的かつ計画的に 推進
平成 24 年度	○第2期がん対策推進基本計画 （～平成 28 年度） ※子どもに対するがん教育の在り 方を検討し、健康教育の中でが ん教育を推進	
平成 25 年度		○第2期福岡県がん対策推進計画 （～平成 29 年度）
平成 26 年度	●「がん教育総合支援事業」を開始 ※有識者による「がん教育」の在り 方に関する検討会を設置、モデル 校等で多様な取組を実施 ●「学校におけるがん教育の在り 方について(報告)」発行	●国の「がん教育総合支援事業」を 受託し、「福岡県がん教育推進事 業」を開始（がん教育推進委員会 の設置、実践校の指定等） ●実践校 ・桂川町立桂川小学校 ・大野城市立御陵中学校 ・福岡県立宇美商業高等学校
平成 27 年度		●実践校 ・筑後市立羽犬塚小学校 ・久留米市立荒木中学校 ・福岡県立伝習館高等学校

平成 28 年度	<p>○がん対策基本法の一部を改正する法律 (改正・施行)</p> <p>※学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進についてがん教育の文言が新たに記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「外部講師を用いたがん教育ガイドライン」発行 ●「がん教育推進のための教材」発行 	<ul style="list-style-type: none"> ●実践校 <ul style="list-style-type: none"> ・豊前市立八屋小学校 ・鞍手町立鞍手中学校 ・福岡県立育徳館高等学校 ●「福岡県がん教育推進事業実践事例集」発行
平成 29 年度	<p>○第 3 期がん対策推進基本計画 (～令和 3 年度)</p> <p>※外部講師の活用体制を整備し、がん教育を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「がん教育推進のための教材指導参考資料」発行 ●「がん教育推進のための教材(一部改訂)」発行 	<ul style="list-style-type: none"> ●実践校 <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県立東鷹高等学校 ●がん教育指導者研修会の実施 ●「学校におけるがん教育を推進するための Q & A 集」発行
平成 30 年度		<p>○第 3 期福岡県がん対策推進計画 (～令和 5 年度)</p> <p>※がん対策の基本的方向性を提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ●県立学校への外部講師派遣事業の実施 ●県域公立中学校へのがん教育を通じた大切な人へのメッセージカードによるがん検診受診勧奨事業の実施(～令和 4 年度)
令和元年度		<ul style="list-style-type: none"> ●県立学校への外部講師派遣事業の実施 ●「福岡県がん教育指導資料集」発行

福岡県教育委員会作成資料



福岡県がん教育
推進事業
実践事例集
平成 29 年 2 月



学校における
がん教育を推
進するための
Q&A 集
平成 30 年 2 月

2 がん教育の目標と内容及び留意点

【がん教育の目標】

がん教育は、がんをほかの疾病等と区別して特別に扱うことが目的でなく、がんを扱うことを通じて、ほかの様々な疾病の予防や望ましい生活習慣の確立等も含めた健康教育そのものの充実を図るものでなければなりません。

そのため児童生徒が、がん教育を通して、生涯にわたって自分や周りの人の健康課題を自覚し、その課題を解決するために必要な意思決定や行動選択ができるようにすること、また、発達段階に応じて健康な環境づくりを行うことができる資質・能力を育成することが大切であり、具体的には下記の目標が挙げられます。

○ がんについて正しく理解できるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付けるとともに、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、適切に対処できる実践力を育成する。

○ 健康と命の大切さについて主体的に考え、行動できる態度を育成する

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

【がん教育の具体的な内容】

下記の(1)～(9)の内容から、児童生徒の発達の段階や学校の実情に応じて内容を精選して取扱うことが大切です。また、この内容は高等学校卒業時を想定していますので、児童生徒の発達の段階を踏まえた内容を検討する必要があります。

(1) がんとは(がんの要因等)

がんとは、体の中で、異常細胞が際限なく増えてしまう病気です。異常細胞は、様々な要因により、通常の細胞が細胞分裂する際に発生したものであるため、加齢に伴いがんにかかる人が増えます。また、数は少ないですが子供がかかるがんもあります。

がんになる危険性を増す要因としては、たばこ、細菌・ウイルス、過量な飲酒、偏った食事、運動不足などの他、一部のまれなものではありますが、遺伝要因が関与するものもあります。また、がんになる原因がわかっていないものもあります。

(2) がんの種類とその経過

がんには胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、前立腺がんなど様々な種類があり、治りやすさも種類によって異なります。また、がんによる症状や生活上の支障なども、がんの種類や状態により異なっています。病気が進み、生命を維持する上で重要な臓器等への影響が大きくなると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることもあります。

(3) 我が国のがんの状況

がんは、日本人の死因の第1位で、2017年では、年間約37万人以上の国民が、がんを原因として亡くなっており、これは、亡くなる方の3人に1人に相当します。また、生涯のうちのがんにかかる可能性は、2人に1人（男性の62%、女性の47%（2014年））とされていますが、人口に占める高齢者の割合が増加してきていることもあり、年々増え続けています。がんの対策に当たって、すべての病院でがんにかかった人のがんの情報を登録する「全国がん登録」を始め様々な取組が行われています。

(4) がんの予防

がんにかかる危険性を減らすための工夫として、たばこを吸わない、他人のたばこの煙をできるだけ避ける、バランスのとれた食事をする、適度な運動をする、定期的に健康診断を受けることなどがあります。

(5) がんの早期発見・がん検診

がんになり患した場合、全体で半数以上、早期がんに関しては9割近くの方が治ります。がんは症状が出にくい病気なので、早期に発見するためには、症状がなくても、がん検診を定期的に受けることが不可欠です。日本では、肺がん、胃がん、乳がん、子宮頸（けい）がん、大腸がんなどのがん検診が行われています。

(6) がんの治療法

がん治療の三つの柱は手術治療、放射線治療、薬物治療（抗がん剤など）であり、がんの種類と進行度に応じて、三つの治療法を単独や、組み合わせて行う標準治療が定められています。それらを医師等と相談しながら主体的に選択することが重要となっています。

(7) がんの治療における緩和ケア

がんになったことで起こりうる痛みや心のつらさなどの症状を和らげ、通常の生活ができるようにするための医療が緩和ケアです。治らない場合も心身の苦痛を取るための医療が行われます。緩和ケアは、終末期だけでなく、がんと診断されたときから受けるものです。

(8) がん患者の生活の質

がんの治療の際に、単に病気を治すだけではなく、治療後の「生活の質」を大切にする考え方が広まってきています。治療による影響について十分知った上で、がんになっても、その人らしく、充実した生き方ができるよう、治療法を選択することが重要です。

(9) がん患者への理解と共生

がん患者は増加していますが、生存率も高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきています。そのような人たちが、社会生活を行っていく中で、がん患者への偏見をなくし、お互いに支え合い、共に暮らしていくことが大切です。

【留意点】

(1) 学校教育活動全体での推進

がん教育の実施に当たっては、がん教育が健康教育の一環として行われることから、学習指導要領総則1-2-(3)を踏まえ、体育科・保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて適切に行うことが大切です。また、家庭や地域社会との連携を図りながら、生涯にわたって健康な生活を送るための基礎が培われるよう配慮することが必要です。

(2) 発達の段階を踏まえた指導

がんに関する科学的根拠に基づいた理解については、中学校・高等学校において取り扱うことが望ましいと考えられます。その際、保健体育科で「生活習慣病などの予防」等が位置付いている中学校2年生や高等学校1年生を対象にまとめて時間を配置したり、全ての学年で時間を確保したりするなどの工夫が必要です。また、健康や命の大切さの認識については、小学校を含むそれぞれの校種で発達の段階を踏まえた内容での指導が考えられます。

※ 各校種における「がん教育」の取扱いについて

小学校では「身近な生活」について「より実践的に」、中学校では「個人生活」について「より科学的に」、高等学校では「個人及び社会生活」について「より総合的」に学習するという体系を踏まえることが大切です。

(3) 外部講師の参加・協力について

がんに関する科学的根拠に基づいた知識などの専門的な内容を含むがん教育を進めるに当たっては、地域や学校の実情に応じて、学校医やがんの専門医等の外部講師の参加・協力を推進するなど、多様な指導方法の工夫を行うことが考えられます。また、がんを通して健康と命の大切さを考える教育を進めるに当たっては、がん経験者等の外部講師の参加・協力が効果的です。

また、各教科担任が実施する授業と、専門家等の外部講師の協力を得て実施する学校行事等に関連させて指導することで、より成果を上げることができます。

(4) がん教育で配慮が必要な事項について

がん教育の実施に当たっては、授業の実施前までに以下のような事例に該当する児童生徒等の存在が把握できない場合についても授業を展開する上で配慮することが必要です。

- ・小児がんの当事者、小児がんにかかったことのある児童生徒等がいる場合。
- ・家族にがん患者がいる児童生徒等や、家族をがんで亡くした児童生徒等がいる場合。
- ・生活習慣が主な原因とならないがんもあることから、特に、これらのがん患者が身近にいる場合。
- ・がんに限らず、重病・難病等にかかったことのある児童生徒等や、家族に該当患者がいたり家族を亡くしたりした児童生徒等がいる場合。

※ 児童生徒等への配慮事項の具体的な内容については、次ページ（本紙7ページ）を御参照ください。

がん教育実施上の児童生徒への配慮について

【事前の留意事項】

- 1 「『がん教育』の実施について」の保護者宛て文書の配布の際に、実施するがん教育の内容や配慮事項について児童生徒に説明する。(本紙 45 ページ参照)
 - ・特に、不安なことや心配なことがある場合は、切り取り線以下を提出するよう説明する。
- 2 「『がん教育』の実施について」の保護者宛て文書の配布後、配慮事項があると回答した家庭に担任から連絡を行い、内容を確認する。
 - ・当該児童生徒の現在の心の状況
 - ・授業（講演）への参加が可能かどうかの確認
 - ・参加の場合の配慮と、不参加の場合の配慮についての確認
 - ※ がん教育実施を見送ることも配慮事項の1つであることを説明する。
 - ※ 本人へ直接確認することについて、保護者の同意を得る。
- 3 児童生徒本人との面談（無理のない範囲で）
 - ・授業（講演）内容の確認
 - ・がん（病気）への思いや現在の心境
 - ・授業（講演）当日の約束事等の確認
 - ※ 途中退席や別室受講が可能なこと、最初から不参加の選択も可能なこと等を提示する。
- 4 「2」「3」の保護者や児童生徒の思いを踏まえ、どのような支援を行うか、全教職員で話し合う。

【当日の留意事項】（配慮が必要であることを把握できない児童生徒がいることを前提に…）

- 1 当日朝の健康観察
 - ・当該児童生徒はもちろん、全員の心身の健康状態を把握する。
- 2 授業（講演）中の配慮
 - ・配慮が必要な児童生徒については、打ち合わせ通りの支援を行う。
 - ・途中退席は許可がいないことを全員へ説明する。
 - ・短い間隔で体調の確認を行う。
 - ※ 「休憩が必要な人はいませんか？」「ここまでで体調は大丈夫かな？」等の呼びかけを行い、状況を確認する。
(体調不良の申し出や容易に退席等ができる場面を提供する。)

【事後の留意事項】

- 1 授業（講演）後の配慮
 - ・必ず全員に感想を書かせる。
 - ※ 感想から見えてくる児童生徒の心境を把握し、個別対応が必要な児童生徒には面談を行う。
また、保護者にも家庭での対応や観察について協力を仰ぐ。
 - ・個別対応の児童生徒に対しては、継続的に心身の健康状態を観察する。
(授業中や休み時間の様子…表情や友人との関わり場面等)
 - ・『がん教育』の実施について（御報告）」(本紙 48 ページ参照)を保護者に配布後、申し出のあった保護者へ連絡を行い、児童生徒及び家族の様子を把握し対応する。(本紙 44 ページ参照)

3 指導資料

指導資料については、小・中学校においては平成 29 年告示、高等学校においては平成 30 年告示の学習指導要領の表記に準じています。

(1)がん教育の年間指導計画例

○小学校

第 6 学年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月

家庭科 B 衣食住の生活 (3) 栄養を考えた食事 ア (ア) 体に必要な栄養素の種類と働き	特別の教科道徳 A 主として自分自身に関すること→P13 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること→P11	体育(保健領域) (3) 病気の予防 ア 知識及び技能 (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康→P10	体育(保健領域) (3) 病気の予防 ア 知識及び技能 (オ) 地域の様々な保健活動の取組	特別活動(学級活動) (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成→P15		
---	---	--	--	--	--	--

○中学校

第 2 学年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月

		技術・家庭(家庭分野) B 衣食住の生活 (1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴 (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事 (3) 日常食の調理と地域の食文化				理科(第 2 分野) (3) 生物の体のつくりと働き (ア) 生物と細胞 ⑦ 生物と細胞
保健体育(保健分野) (1) 健康な生活と疾病の予防 ア 知識 (ウ) 生活習慣病などの予防 ④ がんの予防→P18	特別の教科道徳 B 主として人との関わりに関すること→P21 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること→P19	特別活動(学校行事) (3) 健康安全・体育的行事 講演「外部講師が勧める生活習慣とがん検診の重要性」	特別活動(学級活動) (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成→P23			

○高等学校

第 1 学年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月

			保健体育(科目保健) (1) 現代社会と健康 ア (ウ) 生活習慣病などの予防と回復→P26	保健体育(科目保健) (1) 現代社会と健康 ア (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康		特別活動 (ホームルーム活動) (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成→P28
	特別活動(学校行事) (3) 健康安全・体育的行事 講演「がん検診をはじめとする各種検診受診の重要性と普及」	家庭(家庭基礎) B 衣食住の生活の自立と設計 (1) 食生活と健康 ※家庭(科目家庭総合)の展開例あり 「食生活の科学と文化」 ア (イ) ライフステージの特徴や課題、健康に配慮した食生活→P27		特別活動 (ホームルーム活動) (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 オ 生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立		

第 2 学年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月

総合的な探究の時間 目標「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する」 探究課題「生活習慣病における社会的対策」の探究活動 ※文化祭において生徒や教員のみならず、保護者や地域の人に向けたポスターセッションを行う。						保健体育(科目保健) (1) 健康を支える環境づくり ア 知識 (ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関の活用 ④ 地域の保健・医療機関の活用 「検診などを通じた健康上の課題の把握」
---	--	--	--	--	--	---

※ 本年間指導計画例は、カリキュラム・マネジメントの視点から、各校種、ある学年にまとめて教科等を配置し、計画したものである。
※ 網掛けの内容については、本時展開例を掲載している。

(2) 小学校における指導資料

小学校における指導例

- 各教科等の指導のねらい（※ 指導のねらいについては、主なものを記載している）
 - 体育科（保健領域）： 健康な生活やがんの予防について理解できる。
がんを通して、健康な生活に関わる事象から課題を見付け、解決の方法を考え、それを伝えることができる。
 - 特別の教科道徳： 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命の尊重について、考えを深めることができる。
 - 特別活動（学級活動）： がんにならないための生活習慣を身に付けることができる。
自己の生活習慣の課題に気付き、多様な意見を参考にして、これからの実践方法を意思決定し、がんになるリスクを減らすために、実践を継続しようとするすることができる。

2 各教科等の内容

○体育科（保健領域）

学年	単元名	学習内容	学習指導要領における位置付け
3 学年	「健康な生活」	<ul style="list-style-type: none"> ・主体要因、環境要因 ・運動、食事、休養・睡眠の調和のとれた生活 ・体の清潔 	ア 知識 (ア) 健康な生活 (イ) 1日の生活の仕方 イ 思考力、判断力、表現力等
6 学年	「病気の予防」	<ul style="list-style-type: none"> ・病原体、体の抵抗力、生活行動、環境 ・病原体の発生源をなくす、移る道筋を断ち切る、体の抵抗力を高める ・適切な運動、偏りのない食事、口腔の衛生 ・喫煙、飲酒、薬物乱用は健康を損なう原因 ・生活習慣に係る情報提供、予防接種などの活動 	ア 知識 (ア) 病気の起こり方 (ウ) 生活行動が主な要因となって起こる病気の予防 (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 →P10 (オ) 地域の様々な保健活動の取組 イ 思考力、判断力、表現力等

○特別の教科道徳

学年	教材名	学習内容	学習指導要領における位置付け
5 学年 及び 6 学年	「命あるかぎり、あなたに伝えたい」 (自分の生命を輝かす) ※文部科学省「がん教育推進のための教材」より	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の誕生から死に至るまでの過程 ・人間の誕生の喜びや死の重さ ・限りある生命を懸命に生きることの尊さ ・生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さ ・資料中の人物の生き方と自分の生き方の違いへの気付き ・当たり前「今、生きていること」の価値への気付き ・家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ ・生きることの意義を追い求める高尚さ 	D-(19) 生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること →P11
	「命を見つめて」 【学研】		
	「人生を変えるのは自分～秦由加子選手の挑戦～」 【教育出版】		A-(5) より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと →P13

○特別活動（学級活動）

学年	題材名	学習内容	学習指導要領における位置付け
6 学年	「生活習慣を見直そう」	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康を高める生活 ・病気の予防 	(2) ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 →P15

小学校第6学年体育科（保健領域）学習指導案（例）

- 1 単元名 「病気の予防」（エ）喫煙、飲酒、薬物乱用と健康
- 2 本時について

喫煙を長い間続けると、肺がんや喉頭がん、心臓病などの病気にかかりやすく、特に若年者による喫煙はそのリスクが高まる恐れがある。そのため、小学生のうちに、喫煙が体に及ぼす急性の害と慢性の害について知り、自分の健康だけでなく、周りの人の健康について理解するとともに、学んだことから自分の健康を守るための生活の仕方について考えることは意義があると考えるため本題材を設定する。
- 3 ねらい
 - ・ 喫煙が、喫煙者自身の体（せきが出たり心拍数が増えたりするなどして、呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること）や受動喫煙により周りにいる人の体におよぼす悪影響（がん等）について理解することができる。（知識）
 - ・ たばこによる健康への害や体への影響について、自分の考えや友達の意見をもとに、方法を見付けたり選んだりするなどして表すことができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 4 本時の展開

学習活動・内容	指導・支援上の留意点	活用した教材
1 掲示物をもとに、禁煙や分煙にする施設や店が増えている理由を考える。	◆身の回りにある分煙施設や禁煙表示の画像を提示することで関心を高め思考を促す。	掲示物①「分煙施設」 掲示物②「禁煙表示」
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">めあて</div> たばこの害と健康な生活の仕方について考えよう。		
2 体にあらわれる害について知る。 ・せきが出る ・心拍数が増える 【たばこを吸う人への害】 ・すぐにあらわれる害 ・長い間の喫煙によってあらわれる害 【周りにいる人への害】 ・主流煙と副流煙のちがい ・喫煙者と同じ害があらわれること	◆たばこを吸う人と周りにいる人の害を分けて考えさせることで、周りにいる人への害の大きさに気付かせる。 ◆喫煙によるがん患者の数値を提示することで、煙が直接接触れる口、のど、肺のがんが多いことに気付かせる。	がん教育推進のための教材（P6） 教科書
3 たばこによる健康への害を避けるための生活の仕方について考える。		
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">発問</div> たばこを吸う人と吸わない人が一緒に生活していくためには、どんな工夫をしたらよいでしょうか。		
(1)個人で考える。 (2)グループで交流する。 (3)全体の場で班ごとに発表し、学級全体で交流する。	◆多くの考えを引き出すためにブレインストーミング（個人）→KJ法（グループ）の手法を用いる。	
4 本時のまとめをする。	◆本時の学習を振り返らせるために、めあてを確認する。	

- 5 準備
 - ・ がん教育推進のための教材（文部科学省） 教科書 ワークシート（学習プリント）
- 6 評価
 - ・ 喫煙が、喫煙者自身の体や周りにいる人の体におよぼす悪影響（がん等）について理解したことを言ったり書いたりしている。（知識）
 - ・ たばこによる健康への害を避けるための生活の仕方について、自分の考えや友達の意見をもとに、方法を見付けたり選んだりするなどして表している。（思考・判断・表現）

小学校第6学年特別の教科道徳学習指導案（例）

- 1 主題名 「生命を輝かせる」D-(19) 生命の尊さ
教材名 「命を見つめて」【学研】
- 2 本時について
「命は大切だ」と考える児童は多い。その根拠は、「唯一性」や「有限性」が根拠となる場合が多く、「連続性」や「関係性」などを日常的に考えている児童は少ない。より深く命の大切さを実感させるには、より多面的な視点から生命観を育む必要がある。一方で「どのようにすることが命を大切にすることか」ということについて、正面から向き合う経験は多いとは言えず、意図的に学習させることが大切である。
「多面的な生命観」を基盤として、「自分は、人は、どのような生き方を為すべきか」と考えることは、児童にとって自他の生命を尊重したり、自分自身の生き方について考えたりする大切な機会となる。その結果、日々をより充実させ、生き生きと過ごすことにつながると考える。そのような生き方の素晴らしさに気付き、大切にしたいと考え、本主題を「生命を輝かせる」と設定した。
- 3 ねらい
教材中の人物の生き方と自分の生き方の違いを比べることを通して、当たり前「今、生きていること」の素晴らしさに気付き、自他の生命を大切に毎日を生きようとする態度を育てることができる。
- 4 本時の展開

学習内容・活動	指導・支援上の留意点
<p>1 今の自分の「生きること」への考え方を見つめ、学習への問題意識をもつ。</p> <p>(1) 生命の有限性から自分の今の生き方を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がやりたいことは何だろうか <p>(2) 「生き方への考え方」への問題意識をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命の終わりを考えると、やりたいことも変わる ・最初に考えたやりたいことと、後で考えたやりたいことの違いはなんだろうか ・ただ「本気でやりたいこと」なのだろうか <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>よりよく生きるとはどういうことかを考えよう。</p> </div> <p>2 教材「命を見つめて」を通して見えてくる、自分なりの生命観をもつ。</p> <p>(1) 教材の内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんについての基本的な知識 ・猿渡瞳さんの闘病の経緯 <p>(2) 瞳さんの生き方の追求を通して、生命を大切にする生き方について、多面的に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療と再発を繰り返すがんと闘病を続ける瞳さんの気持ちについての推し量り →死への恐怖や、闘病の苦しさ ・辛い闘病の中で、自分の体にむち打ってまで、弁論大会で伝えたかったことの推し量り →支えてくれた方々への思いや願い 今を精一杯生きてほしいという思い 生き続けることの難しさと尊さ 	<p>◆生命の有限性から課題意識をもたせる発問構成</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 今、何をしてる時が幸せか。 ② あと少ししか生きられないとしたら、何をしたいか。 ③ ①と②で考えは変わるか。 ④ なぜ変わるのだろうか。 <p>◆③については「変わらない」場合もある。その際は、双方の考えを聞き合うことで、ねらいとする学習課題へと方向づける。</p> <p>◆瞳さんの紹介と、弁論大会で「本当の幸せ、それは…」と話されたことを伝え、目的意識をもたせてから、範読を始める。</p> <p>◆価値にせまる発問構成</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 治癒と再発を繰り返すがんと闘病を続ける瞳さんは、どのような気持ちだったのだろうか。 ② 瞳さんは闘病の辛い中さらに自分にむち打って、弁論大会で何を伝えようとしたのだろうか。 (瞳さんが見つけた「本当の幸せとは、今、生きているこ

- (3) 学習課題を振り返り、よりよく生きることについて自分なりの考えをもつ。
- ・ 当たり前の今が、当たり前ではないと考えて、日々を大切に生きていくこと
 - ・ 自分にとって大切な人の思いを受け止め、感謝の気持ちをもって過ごすこと
 - ・ 夢や目標をもって、それらへ向けて、亡くなった人の分まで、一生懸命生きること

- 3 本時で考え深めた生命観を基に、これからの生き方について考える。
- ・ 命をかけて、日々を大切に生きることの大切さを伝えてくれる人々の思いを受け止めて、自分も毎日の過ごし方を考え直したい
 - ・ 自分にも大切にしてくれている人がいる
 - ・ 普段は気付かないふりをしているけど、家族や友達に感謝の気持ちをもって、一緒の時間を大切に過ごしていきたい

と」とは、どういうことだろうか。)

- ③ 瞳さんの生き方から、「よりよく生きる」とはどういうことだと考えますか。

◆多面的な考えをもとに自分なりの生命観を再構築する手がかりとするために、発問②の意見を多様に引き出し、板書上に構造的に整理しておく。

◆戦艦大和の語り部の八木康夫さんの言葉「若者よ、君たちが生きる今日という日は、戦友たちが生きたかった未来だ」を紹介し、今生きていることの価値を、さらに考え深めさせる。

5 準備

- ・ 瞳さんの写真（教科書「新・みんなの道徳6」【学研】より）

6 評価

- ・ 自分とのかかわりで、生きることについての大切さについて、考えを深めている。
- ・ 生きることについて、多面的・多角的に考えている。

7 備考

本授業に当たっては、以下の点での配慮をしながら、計画を付加修正して実践していればと考えている。

- ① 展開例に取り上げた教材は、【学研】の「新・みんなの道徳6」に掲載されている。各地域で採択されている教科書が異なる場合は、著作権上の問題から、採択教科書内の別資料、又は自作教材の活用を行うこと。

なお、その際の教材選定の視点は、以下の通りである。

- ・ 主な人物が、がん闘病の中で、より強く生きようとする姿が描かれていること。
- ・ 主な人物が、可能な限り児童に近い年齢や環境にあること。

- ② 本授業は、以下のような学習展開となっている。なお、本展開は、上記①の教材を活用する際にも活用することができるよう、計画をしている。

- ・ 導入…学習課題把握のための発問構成。

生命の有限性を自覚する問いから、現在の生き方を見つめさせ、「よりよい生き方とは何か」へと方向づける。

- ・ 展開…主人公の生き方を追求する発問構成。

苦悩へ共感させる問い→強い生き方の支えとなっている思いを押し量らせる問い→主人公の生き方を踏まえて学習課題を振り返らせる問い

- ・ 終末…「よりよい生き方」を実現させたいという考えを深めさせる資料提示。

本展開例では、「今、生きていることは、当たり前のものではない。だから日々を大切にしたい」と、実在の人物の人生や言葉を引用している。

小学校第6学年特別の教科道徳学習指導案（例）

- 1 主題名 「心の壁を乗り越える」A-(5) 希望と勇気、努力と強い意志
教材名 「人生を変えるのは自分～秦由加子選手の挑戦～」【教育出版】
- 2 本時について
国民の2人に1人が、がんに罹患する現状がある現在、どの児童にとってもがんは身近な病気である。しかしながら、「がん＝死」という先入観は依然強く、正しい理解がなされているとは言い難い。近年は、がんの罹患率や死亡率は、減少傾向にある。また、検査による早期発見や適切な治療により、がんの種類によっては、5年生存率が9割を超えるものもある。このような中、がんに向き合って克服する生き方や、克服した後に目標をもって自己実現をする生き方をする方も少なくない。児童は夢や目標を実現に向けて努力することの大切さは概ね理解している。しかし、努力への一歩を踏み出せない「壁」を感じることもある。それは自分が置かれた環境からの諦めや、周囲からの好奇の目等が考えられる。このような児童にとって、目標を諦める理由を病であることにせず、努力を続けた人物を通して、努力に踏み出す価値を捉えることは非常に意義深いと考え、本主題を「心の壁を乗り越える」と設定した。
- 3 ねらい
教材中の人物の生き方を通して、自分を向上させようとする思いをもち、心理的な壁を乗り越えて、目標に向けて、一歩を踏み出そうとする態度を育てる。
- 4 本時の展開


学習内容・活動	指導・支援上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 がんについて知るとともに、本時のめあてをもつ。 (1) 秦由加子さんについての動画を視聴し、どのような人物かについて予想を聞き合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的な特徴や行動について捉えること ・内面的な人物像について想像すること (2) がんについての正しい情報を得る。 ※7 備考②を参照。 (3) 秦由加子さんの略歴から、本時のめあてをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・完治から空白期間、スポーツでの活躍へと変化する秦さんの経歴から、心の動きを想像すること ・「やりたくてもやれない理由があったのでは。」 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">目標に向けて歩み出す時の大切なこと について考えよう。</p> </div> 2 教材「人生を変えるのは自分」を通して、目標に向かう時の大切なことについて考える。 (1) 教材の内容を振り返るとともに、足を失ったことで、前向きでいれなくなった心情に共感する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「笑顔で過ごしたかったけど、人から好奇の目で見られることが苦しかった」 ・「昔みたいに泳ぎたいけど、きつとうまくやれない。」 (2) 不安を乗り越えて、一歩踏み出そうとした秦さんの葛藤について推し量る。 <ul style="list-style-type: none"> ・義足を隠し続けることでの安心と将来への不安、隠 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教材の人物への関心を高めるために、HPに公開の動画を提示する。 「秦さんは、どのような人なのでしょう。」と発問する。 ◆がんについての既存の知識と実際の情報を比べさせながら、「がん＝死」という見方を和らげるなどがんについての正しい理解を図る。 ◆がんの完治から、現在の活躍の間に、10年間以上の空白期間があることを知らせる。 「なぜ10年以上も水泳から遠ざかっていたのでしょうか。」と発問する。 ◆人前に出ることができない悲しさへの共感と理解を図る。 「秦さんは、どんな気持ちで自分が義足であることを隠し続けたのでしょうか。」と発問する。 ◆補足資料として、秦さんのインタビューの言葉の提示。 「秦さんは「自分を変えたい」と、ずっと考えていたそうです。なぜでしょうか。」と発問

<p>さないことでの不安と将来への希望の葛藤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「このままでは自分は笑えなくなってしまう。」 ・「何も気にせずに、生き生きと過ごしたい。」 <p>(3) 秦さんの「自分の意識を変える」という言葉の意味について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「不安や心配を振り切ること。そうしないと、いつまでもクヨクヨして過ごして、悲しくなる。」 ・「『できない』と諦めず、やれることをやろうとすると。やらないとできるかどうかは分からない。」 ・「『大丈夫』と思うこと。同じ悩みを乗り越えた人がいる。自分にもきっとできるはずだから。」 <p>3 本時学習内容を、自分とのかかわりで捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は自分の夢を笑われたり、どうせ無理と言われたりするのではないかと感じていた。だけどやっぱり実現したい。思い切って踏み出したい。」 <p>4 学習内容を振り返り、今後の生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目標を叶えるためには、努力が大切なのは、言われなくても分かっている。秦さんは、努力する前の『心のバリア』を自分から外すことの大切さを教えてくれた。私も目標へ向けて強く生きたい。」 	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆児童に問い返ししながら、(1)と(2)の考えを、板書上で構造的に視覚化する。 ◆「『自分の意識を変える』とは、どういうことでしょうか。」 「なぜ、そのことが重要なのでしょうか。」と発問する。 ◆教材中の「心のバリア」と(1)や(2)の不安や葛藤を結びつけるとともに、「自分の目標の前に立ちほだかるもの」と意味づけする。 ◆「あなたにとっての、目標の前に立ちほだかる『心のバリア』は何ですか。また、どのように向き合っていきたいですか。」と発問する。 ◆秦さんへの言葉を紹介する。 「パラリンピックは、ない物があるから頑張る人ではなく、あるものを最大限に生かす努力をする人が出場する大会」
<p>5 準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 秦由加子さんの写真（教科書「小学道徳6 はばたこう明日へ」【教育出版】より） ・ 動画「どこまでも行こう」 ・ がんに関する統計資料（国立がん研究センターHP がん情報サービス 部位別5年相対生存率2006～2007 診断例） ・ 秦さんへのインタビュー記事 <p>6 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分とのかかわりで、目標に向け一歩を踏み出すことの大切さについて考えている。 <p>7 備考</p> <p>本授業に当たっては、以下の点での配慮をしながら、計画を付加修正して実践する。</p> <p>① 展開例に取り上げた教材は、教育出版の「小学道徳6 はばたこう明日へ」に掲載されている。各地域で採択されている教科書が異なる場合は、著作権上の問題から、採択教科書内の別教材、又は自作教材を活用すること。</p> <p>また、教科書教材に含まれていない、主人公の秦由加子さんのインタビュー記事や動画等、及びがんに関する情報については、5に記載のホームページ等を参考に引き上げること。</p> <p>② 本授業においては、導入で、がんについての先入観を正しい知識に置き換える段階を設ける。その際に取り扱う内容は、授業を行う学級の児童の実態に応じるが、概ね以下の内容を取り扱うこととする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人の死亡率が最も高い病気であり、国民の2人に1人が罹患する。 ・ 定期的な検査による早期発見と、適切な治療により、がん全体では6割超、部位によっては9割超が完治する。 ・ 予防意識の向上と医療の発展により、罹患率も死亡率も、年々減ってきている。 ・ がんを克服して活躍している多くの方がいる（著名人を取り上げる）。 	

※30 ページに資料 1～3 を掲載

小学校第6学年特別活動（学級活動）学習指導案（例）

- 1 題材名 「生活習慣を見直そう」（2）ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
- 2 本時について
現在の疾病での死因で最も多いのは、がんによるものである。また、国民の2人に1人ががんにかかるとされており、身近な疾病であるといえる。この題材は、がんになるリスクを減らす生活習慣が明らかになっていることを知り、自己の課題に気付き、解決方法を話し合う活動を通して、がんの予防に向けて実践方法を意思決定し、実践して、心身の健康を保持増進する態度を養うものである。
- 3 ねらい
 - ・がんになるリスクを減らすためには、自己の生活を改善することが大切であることを理解するとともに、そのための実践方法を身に付けることができる。（知識及び技能）
 - ・がんになるリスクを減らすための、自己の生活の課題に気付き、多様な意見を参考にして、これからの実践方法を意思決定し、実践できる。（思考力、判断力、表現力等）
 - ・がんになるリスクを減らすために、実践を継続しようとする。（学びに向かう力、人間性等）
- 4 本時の展開

学習内容・活動	指導・支援上の留意点	活用した教材
1 めあてをつかむ。 (1) 事前アンケートの結果を知る。	◆学級の身近な生活における傾向を把握できるように、食生活と運動についてのアンケート結果を提示する。	・アンケート結果（資料1）
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> めあて 生活を見直し、自分でできることを決めよう。 </div>		
2 自己の生活における課題を考える。	◆自己の生活における課題に気付かせるために、自分の一週間の食べた物と運動についての結果を参考に課題を見付ける時間を設定する。	・調査用紙（資料2） ・ワークシート
3 養護教諭からがんについての話を聞く。	◆がんは身近な疾病であることや生活習慣によってがんになるリスクを減らすことに気付かせるために、養護教諭にがんに関する専門的な内容（食生活と運動）を伝えてもらう。	・がんになるリスクを減らす望ましい生活習慣の資料
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> グループで調査用紙をみながら、食生活と運動についての解決方法を話し合しましょう。 </div>		
4 解決方法を話し合う。	◆自分にできそうな解決方法の見通しをもたせるために、がんになるリスクを減らす視点で食生活と運動の解決方法を話し合う場を設定する。	
5 実践方法を決める。 ・チャレンジカードに記入する。	◆自分の課題に合った食生活と運動に関する意思決定ができるように、話し合った内容を参考にすることと自分でできる内容を見つけることができるように助言する。	
6 教師の話を聞く。	◆今後の実践意欲を高めるために、本時の学習内容の価値を話す。	

5 準備

- ・ アンケート結果の資料、がんに関する資料、ワークシート、チャレンジカード

6 評価

- ・ 自己の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、そのための実践方法を身に付けている。(知識・技能)
- ・ 自己の課題に気づき、話合いの意見をもとに、自らの実践方法を意思決定し、実践している。(思考・判断・表現)
- ・ 自己の課題の改善のために、他者と協働して実践を継続しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 中学校における指導資料

中学校における指導例

1 各教科等の指導のねらい（※ 指導のねらいについては、主なものを記載している）

- 保健体育科（保健分野）： がんの要因及びがんを予防するための有効な方法について理解することができる。
がん予防のための生活習慣の在り方やがん検診の重要性について、自分の考えや他者の意見をもとに、解決方法を見付けたり選んだりすることができる。
- 特別の教科道徳： 生命の尊さを理解し、かけがえのない生命の尊重や社会的関係性について、考えを深めることができる。
自分の心を相手の立場や気持ちに寄せて気配りする思いやりの心を大切にすることを育てる。
- 特別活動（学級活動）： 心身ともに健康で安全な生活態度や生活習慣を身に付けることができる。
自らの健康状態の理解と関心を深め、適切に管理していく方法を考えたり話し合ったりする学習活動に積極的に取り組むことができる。

2 各教科等の内容

○保健体育科（保健分野）

学年	単元名	学習内容	学習指導要領における位置付け
2 学年	「がんの予防と回復」	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの要因 ・がんの予防 ・適切な生活習慣 ・健康診断やがん検診 ・疾病の回復 	(1) 健康な生活と疾病の予防 ア 知識 (ウ) 生活習慣病などの予防 ① がんの予防 イ 思考力、判断力、表現力等→P18

○特別の教科道徳

学年	教材名	学習内容	学習指導要領における位置付け
2 学年	「命を見つめて」 【日本文教出版社】	<ul style="list-style-type: none"> ・生かされていること（生命の偶然性）への感謝の念 ・生命の有限性・精神性・関係性 ・自分の生命の大切さの自覚と生命を尊重する態度 	D-(19) 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること→P19
	「心に寄り添う」 【東京書籍】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の心を相手の立場や気持ちに寄せて気配りする思いやりの心 ・思いやりの心を大切にする態度（自分が相手に対して何をもちて応答することができるか） ・人間尊重の精神、人間愛の精神 	B-(6) 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること→P21

○特別活動（学級活動・生徒会活動）

学年	題材名	学習内容	学習指導要領における位置付け
2 学年	「健康の保持増進」	<ul style="list-style-type: none"> ・節度ある生活 ・自己管理を行うことの意義とそのため必要なこと ・生活環境や健康維持に必要な生活習慣 	(学級活動) (2) エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成→P23
	「がん教育推進啓発活動」	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健全な発達や健康の保持増進の意義と必要な行動の仕方 ・生涯にわたって心身ともに健康な生活を実践しようとする態度 	(学校行事) (3) 健康安全・体育的行事

※31 ページに学習プリントを掲載

中学校第2学年保健体育科（保健分野）学習指導案（例）

- 1 単元名 「健康な生活と疾病の予防」（ウ）生活習慣病などの予防（がんの予防）
- 2 本時について

がんは、生活習慣病の一つであり、今現在、日本における死因として最も多いとされている。また、国民の2人に1人ががんにかかるとされており、身近な疾病であるといえる。死のイメージの強いがんであるが、健康診断やがん検診などで早期に異常を発見・治療することが可能であり、疾病の回復に至っている場合も多くあることから、がんの原因や病気について知り、予防のために必要なことや気を付けるべきことを考え、今後の生活に活かしていくことが重要であると考え、本題材を設定する。
- 3 ねらい
 - ・ がんの要因及びがんを予防するための有効な方法について理解することができる。（知識）
 - ・ がん予防のための生活習慣の在り方やがん検診の重要性について、自分の考えや他者の意見をもとに、解決方法を見付けたり選んだりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 4 本時の展開

学習活動・内容	指導・支援上の留意点	活用した教材
1 前時の復習とめあての確認を行う。 (1)生活習慣病について振り返る。 (2)生活習慣病の中で、なぜがんの死亡率が高いのかを予想する。 ・ 治らないから・がんは見つかりにくいから	◆前時の学習プリントを活用し、死亡原因全体の50%以上が生活習慣病であり、そのうち25%以上が、がんであることに着目させる。	前時の学習プリントと提示資料
めあて がんについて正しく理解し、予防するための方法について考えよう。		
2 がんを予防するために有効な方法について考える。		
発問 がんを予防するためには、どんなことをしたらよいか。		
(1)個人で考え、全体で出し合う。 ・ たばこを吸わない ・ 偏った食事をしない (2)がんの要因は生活習慣の他にも遺伝要因、細菌・ウイルス感染などがあることの説明を聞き、再度、 発問 について考える。 ・ 健康診断を受ける	◆適切な生活習慣を行っている人でもがんになる可能性があることを説明し、誰もが予防のために行うとよいことについて考えるよう指示する。	教科書
3 がん検診の受診率や発症後の生存確率、生存年数のデータを見て、考えたことを交流する。 ・ 早期発見・早期治療の重要性 ・ 家族に対する受診勧奨	◆疾病の早期発見の大切さを理解できるように、がん検診の受診率や発症後の生存確率、生存年数のデータを提示する。	がん教育推進のための教材（P8、9）
4 本時のまとめをする。	◆本時の学習を振り返らせるために、めあてを確認する。	

- 5 準備
 - ・ がん教育推進のための教材（文部科学省） 教科書 学習プリント（資料）
- 6 評価
 - ・ がんの要因には生活習慣、遺伝要因及び細菌・ウイルス感染などがあること、また、がんの予防には適切な生活習慣、健康診断やがん検診が有効であることを書いている。（知識）
 - ・ がん予防のための生活習慣の在り方やがん検診の重要性について、自分の考えや友達の意見をもとに、解決方法を見付けたり選んだりするなどして表している。（思考・判断・表現）

中学校第2学年特別の教科道徳学習指導案（例）

- 1 主題名 「懸命に生きる」D-(19) 生命の尊さ
教材名 「命を見つめて—猿渡瞳さんの六百四十六日—」【日本文教社】
- 2 本時について
今日の社会においては、生命を軽視する軽はずみな風潮がある。それは、「命は大切」と分かっているにもかかわらず、生命の尊さを実感できずにいる人が増えていることに一因があると思われる。特に、中学生の時期は、比較的健康に毎日を過ごせる場合が多いため、自己の生命に対する有り難みを感じずにいる生徒も多いと思われる。そこで、かけがえない生命が与えられていることに喜びと感謝の念をもち、支え合いながら生命を尊重する態度を育むことが大切であると考え、本主題を「懸命に生きる」と設定した。
- 3 ねらい
命の大切さを有限性、偶然性、社会的関係性などの側面から多面的・多角的に捉えて理解し、家族や社会の関わりの中で互いに支え合い、与えられた命に感謝の念をもって日々精一杯に生きようとする態度を育てる。
- 4 本時の展開

学習内容・活動	指導・支援上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の方向性を確認する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「命が大切なのはなぜか」、「命を大切に生きているか」出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・命は1つしかないから ・死んだらもとは戻れないから ・やりたいことができなくなるから ・考えたことがない ・どういふのが命を大切に生きているか分からない (2) 「猿渡瞳さん」について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県大牟田市出身 ・右大腿骨骨肉腫を発症 ・13歳(中学校2年生)で他界 (3) 本時のめあてを確認する。 	<p>◆命が大切だとわかっているにもかかわらず生命の大切さを意識したりかけがえない生命が与えられていることに感謝したりできていない自分に気付くことができるように、以下の発問をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「命が大切なのはなぜですか。」 ② 「命を大切に生きていますか。」 <p>◆瞳さんの中学生までの写真を提示しながら、自分たちと同じように学校生活を送っていた主人公が、がんの宣告を受け、病気と闘ったことを説明する。</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 命を大切に生きている生き方について考えよう。 </div>	
<ol style="list-style-type: none"> 2 教材を読んで、最も心を動かされたところとその理由を考え交流する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「がんを勝ってみせる」と最期の一日まで闘ったところ→諦めずに生き続けようとしたから。＜可能性＞ ・「お母さんががんじゃなくてよかった」と言ったり、他のがん患者さんを励ましたりしたところ→自分もつらい中で周囲のことを思いやっているから。＜社会的関係性＞ ・徹夜して作文を書き、命の大切さを訴えたところ→一生懸命に生き抜き、命のメッセージを伝えようとしているから。＜有限性＞ 	<p>◆心が動かされた場面を重視して、道徳的な感じ方や考え方を深めていくことができるように以下の発問をする。</p> <p>「この話で最も心を動かされたところはどこですか。」</p> <p>◆お母さんを励ます一方的な関係ではなく、お母さんも瞳さんの治療の選択に理解を示すなど互いが心の支えになっていたことを確認する。</p> <p>◆がんと向かい合って実感した命の大切さを、使命感をもって伝えようとしたことを確認する。</p>

<p>・「私のからだありがとう」と言ったところ→与えられた命を精一杯生きたからこそ言えることだから、また、理解し支えてくれたお母さんへの感謝の気持ちが伝わるから ＜有限性、社会的関係性＞</p> <p>3 瞳さんの行為の背景を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難や逆境に目を向け悲観的になるよりも、命があることに感謝し乗り越えることの方がすばらしいことに気付いたから。 ・今、生きていることの素晴らしさを感じて、明るく前向きに生きていくことの大切さに気付いたから。 ・これまで周りに支えられて生きてきたことに感謝し、次は自分が支えたいと思ったから。 <p>4 本時のまとめをし、自分の生き方を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きていることや家族がいることは当たり前ではなく感謝すべきことだと思った。 ・命は永遠ではなく限りがある。だからこそ、自分らしく輝けるように、今を精一杯頑張りたい。 	<p>◆がんと向き合ったことで、命の有り難みを感じ、感謝の念をもって日々精一杯に生きたからこそ言えた言葉であることを確認する。</p> <p>◆命の大切さを有限性、偶然性、可能性、社会的関係性などの側面から捉えて理解できるように、以下の発問をして、2の活動で確認した内容と関連づけながらまとめていく。</p> <p>「瞳さんがこのような行為ができたのは、どんなことに気付いたからですか。」</p> <p>◆瞳さんの弁論大会原稿を配布し、論文大会の映像を視聴した後に、振り返りの時間を取る。</p>
--	--

5 準備

- ・ 瞳さんの写真（教科書「新・みんなの道徳」【学研】より）等

6 評価

- ・ 命の大切さを有限性、偶然性、社会的関係性などの側面から多面的・多角的に考えている。
- ・ 家族や社会の関わりの中で互いに支え合い、与えられた命に感謝の念をもって日々精一杯に生きることの大切さを自分との関わりで深く考えている。

7 備考

本教材の活用は、福岡県道徳教育推進資料「道徳教育実践ハンドブック vol.2」に示されている活用例に基づき、以下の①～④のような構成となっている。このような構成は、例えば「奇跡の一週間」（新しい道徳2 【東京書籍】）においても活用できると考える。

- ①心を動かされた場面や行為等の取り出し
「この話で、最も心を動かされたところはどこか。」
- ②理由の追求
「なぜ、そこに心を動かされたのか。」
- ③主人公がとった学ぶべき行為の背景の追求
「どうしてこのような行為ができたのか。」
- ④主人公に学んだことの意識化
「主人公の生き方から、自分が学んだことは何か。」

中学校第2学年特別の教科道徳学習指導案（例）

- 1 主題名 「気持ちをこめて」B-(6) 思いやり、感謝
教材名 「心に寄り添う」【東京書籍】
- 2 本時について
現在、日本人の2人に1人はがんにかかると推計されている。このような中で、身近に不安を抱えたがん患者さんやその家族がいるという状況は、今後ますます増えていくと考えられる。そこで、がん患者さんやその家族だけに限らず、病気や悩みを抱えた人たちと「ともに生きる」という意識をもち、相手の立場や気持ちを自分の心に寄せて気配りする思いやりの心の大切さに気づかせていく必要があると考え、本主題を「気持ちをこめて」と設定した。
- 3 ねらい
自分の心を相手の立場や気持ちに寄せて気配りする思いやりの心を大切にすることを育てる。
- 4 本時の展開

学習内容・活動	指導・支援上の留意点
1 がんに関する内容を把握し、本時のめあてを設定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者の数は増え続けている ・がんは誰でもなり得る可能性がある ・がんは治らない病気ではない ・患者さんはがんと闘いながらも自分らしく生きることを望んでいる ・家族も不安をもっている ・体だけでなく心の痛みを取り除くために相手の心に寄り添うことが必要 	◆教材に関する内容への理解を深めるために、以下の補助発問を順に行う。 「がんという病気についてどんなことを知っていますか。」 「がん患者さんはどんなことを望んでいるのでしょうか。」 ◆文部科学省「がん教育推進のための教材」を抜粋して提示する。
相手の心に寄り添うとはどういうことか考えよう。	
2 教材をもとに、主人公（山田さん）の気持ちや考えについて話し合い、相手の心に寄り添う思いやりについて明らかにする。 (1) がん患者さんと目線を合わせてあいさつをする看護師の山田さんの気持ちや考えについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんと心の距離を近づけたい ・一人一人の患者さんに応じた接し方をしたい ・気持ちが伝わるよう行動で表すことが大切だと思った (2) がん患者さんに声をかけてもらうことで、看護師の山田さんが「目を覚まされたような気がした」とはどういうことか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師の自分も患者さんに寄り添ってもらっていること ・辛さや苦しさを分かってもらえるだけで気持ちが楽になれること ・傍らで温かく見守ってもらうこと 	◆主人公（山田さん）の気持ちや考えを理解したり、感じたりすることができるよう以下に以下の発問や手立てを行う。 (1) 「看護師の山田さんはどんな気持ちや考えから一人ひとりのがん患者さんと目線を合わせてあいさつをしているのでしょうか。」 ※教師（患者さん役）と代表生徒（山田さん役）の役割演技を見た後に発問し、フロアーの生徒が見て感じたことをもとに考えさせる。 (2) 「看護師の山田さんが「目を覚まされたような気がした」とはどういうことなのでしょう。（どんなことに気付いたのでしょうか）」 ※(1)と(2)を対比的に板書し、患者さんに寄り添う看護師と患者さんに寄り添ってもらう看護師の関係や気持ちを視覚化する。

<p>で気持ちが伝わること</p> <p>(3)相手の心に寄り添うことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の心にある辛さや苦しさに自分の心を近づけ重ねること ・相手の立場や気持ちを尊重し、相手の辛さや苦しさに共感し合うこと ・相手への気持ちを行為にして折れそうな相手の心の支えになること <p>3 学習を振り返りこれからの自分の生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いだけで行動せず、互いに助け合うという気持ちをもって行動することを大切にしたい ・接する相手の立場を尊重して、互いに支え合うことを大切にしたい ・病気を抱えた患者さんが、不安ではなく心の温かさを感じるように接し、お互いに元気が出るようにしていきたい 	<p>(3)「相手の心に寄り添うとはどういうことなのでしょうか。」</p> <p>※(1)と(2)を受けてめあてに設定したテーマ発問をする。話し合ったことともに板書を使いながら生徒が説明する場を設定し「相手の心に寄り添う」イメージが具体化されるようにする。</p> <p>◆相手の心に寄り添うような接し方やがん教育の視点を踏まえて以下のような発問をする。</p> <p>「相手の心に寄り添って接していくためにあなたはどのようなことを大切にしていきたいですか。」</p> <p>「がんなどの病気を抱えた人と出会ったとき、あなたはどのようなことを大切にしながら接していきたいですか。」</p>
<p>5 準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん教育推進のための教材（文部科学省） <ul style="list-style-type: none"> スライド教材モジュール1（がんという病気） スライド教材モジュール7（がん治療の支援） スライド教材モジュール8（がん患者のおもい） <p>6 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の心を相手の立場や気持ちを寄せて気配りする思いやりの心の大切さを自分とのかかわりで深く考えている。 ・相手に寄り添う立場と相手に寄り添ってもらう立場の気持ちや考えをもとに、心を近づけ心を支え合う思いやりについて多面的・多角的に考えている。 <p>7 備考</p> <p>本授業の教材の活用を、福岡県道徳教育推進資料「道徳教育実践ハンドブック vol.2」に示されている範例的活用に基づき以下の①～④の構成で行い、思いやりの根底にある「人間愛の精神」の理解を深めることも考えられる。</p> <p>①行為等の取り出し 「相手の心に寄り添っていると感じたところはどこか。」 （「ともに生きる」という意識をもつことができるように、患者さんに寄り添う看護師と患者さんに寄り添ってもらう看護師の関係や気持ちを取り出す。）</p> <p>②理由の追求 「なぜ、そこが相手の心に寄り添っていると感じたのか。」</p> <p>③行為の背景の追求 「相手の心に寄り添った気配りができたのはなぜだろうか。」</p> <p>④学んだことの意識化 「主人公の学びを通して、相手の心に寄り添って接していくためにあなたはどのようなことを大切にしていきたいですか。」</p>	

※32・33 ページに資料 1～3 を掲載

中学校第2学年特別活動（学級活動）学習指導案（例）

- 1 題材名 「健康の保持増進」(2) エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成
2 本時について

2人に1人ががんにかかるとされており、学齢期から生活習慣の自己管理について学習する必要性が高まっている。中学生では、がんに対する正しい知識を学ぶだけではなく、がんという病気についての理解を通して望ましい生活習慣を身に付け、生涯にわたり自らの健康を適切に管理するための実践力を育成することが重要である。そこで、保健体育科や道徳科等で学習した内容を活用し、話し合いや意見交流等の主体的な活動を通して、健全な生活習慣の形成に向けて実践していくための意思決定を図ることができる本題材を設定した。

3 ねらい

- 自己の生活習慣を振り返り、健全な習慣形成の意義や方法について理解することができる。
(知識及び技能)
- 自己の生活習慣について課題を見つけ、健全な習慣形成の方法や解決策を、自他の考えをもとに見付けたり選んだりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 自らの健康状態の理解と関心を深め、適切に管理していく方法を考えたり話し合ったりする学習活動に積極的に取り組むとともに、実践を継続しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

4 本時の展開

学習内容・活動	指導・支援上の留意点	活用した教材
1 学習の想起とめあてを確認する。 (1) 事前に実施した生活習慣セルフチェックの結果を知る。 (2) がんの要因に生活習慣に起因するものがあることを知る。	◆集約結果を提示し、自己の生活習慣の傾向や課題を見つけさせる。 ◆保健体育科等の学習を基に、生活習慣の自己管理の重要性について確認する。	※資料1「日本人におけるがんの要因」
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>めあて ずっと健康な自分であるために、「MY 健康宣言」を作ろう。</p> </div>		
2 「MY 健康宣言」を作成する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問 自分が実践できる「がんを予防する生活習慣」には、どんなものがあるだろうか。</p> </div>		
(1) がんを予防する生活習慣にはどんなものがあるか考える。 (2) がん予防（健康）に効果があると思う自分の生活習慣を考える。 (3) グループ内で、自他の生活習慣について意見交流し評価し合う。 (観点：継続性、実効性、課題性等) (4) 「MY 健康宣言」を作成する。 (5) 全体で交流する。	◆がんを予防する生活習慣を予想させ、共有させる。 ◆資料2と照らし合わせ、自分の生活習慣を振り返らせる。 ◆「効果的だ」「実践してみたい」と思うものを選ばせ、評価させる。 ◆交流内容や観点を基に作成させる。 ◆観点に基づいた価値づけを行う。 ◆本時の学習を振り返らせるために、めあてを確認する。	※資料2「がんを防ぐ5つの生活習慣」 ※資料3「学級活動ワークシート」
3 本時のまとめをする。		
5 準備		
<ul style="list-style-type: none"> がん教育推進のための教材（文部科学省） グラフ（資料1） 表（資料2） ワークシート（資料3） 		
6 評価		
<ul style="list-style-type: none"> 健全な習慣形成における自己管理の重要性に気付いている。（知識・技能） 健全な習慣形成のために自分が今からできることを、自分の考えや友達の意見をもとに、見付けたり選んだりするなどして表している。（思考・判断・表現） 自らの健全な習慣形成のために、自己管理の意義や方法を考えたり話し合ったりする学習活動に積極的に取り組むとともに、実践を継続しようとしている。（主体的に学習に取り組む態度） 		

(4) 高等学校における指導資料

高等学校における指導例

1 各教科等の指導のねらい（※ 指導のねらいについては、主なものを記載している）

○保健体育科（科目保健）： がんについて正しい理解をするとともに、がんの予防と回復は、個人の取組とともに、健康診断やがん検診の普及など社会的な対策が必要であることが理解できる。

○家庭科（科目家庭総合）： 健康に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けることができる。

自己や家族の食生活について関心を持ち、がんを予防するための食事について考え、他者との交流によって考えを深めることができる。

家庭と地域との関わりについて理解するとともに、様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深めることができる。

○特別活動（ホームルーム活動）： 学校行事や生徒会活動を通じて、生命の尊さについて、考えを深めることができる。

がん患者への理解を深め、どのように接していくのか、考えることや話し合うこと、発表する学習活動に積極的に取り組むことができる。

2 各教科等の内容

○保健体育科（科目保健）

学年	単元名	学習内容	学習指導要領における位置付け
1 学年	「生活習慣病などの予防と回復」	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの種類 ・がんの原因 ・がんの回復 ・がん検診 ・正しい情報 ・社会的対策 	「現代社会と健康」 ア (ウ) 生活習慣病などの予防と回復→P26
2 学年	「健康を支える環境づくり」	・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健センター、保健所、医療機関などを適切に活用すること	「健康を支える環境づくり」 ア (ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関

○家庭科（科目家庭総合）

学年	単元名	学習内容	学習指導要領における位置付け
1 学年	「生涯の健康を見通した食事計画」	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスのよい食事 ・食事計画 ・調理実習 	「食生活の科学と文化」 ア 知識及び技能 (イ) ライフステージの特徴や課題、健康に配慮した食生活 →P27
1 学年	「共に生き、共に支える」	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と福祉 ・共に生きる 	「共生社会と福祉」 ア 知識 (イ) 共に支え合って生活することの重要性

○特別活動（学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動）

学年	題材名	学習内容	学習指導要領における位置付け
全学年	「がんについて」	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を迎えての講演会 	(学校行事) 2 内容 (3) 健康安全・体育的行事
全学年	「がんについて」	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭での保健委員会による調査発表 ・調査内容の展示、講演会後の感想等の展示 	(生徒会活動) 2 内容 (3) ボランティア活動などの社会参画
1 学年	「がん患者への理解と共生」	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師（がん経験者）を迎えての授業 ・がん患者の心境 ・がん患者との関わり方 	(ホームルーム活動) (2) ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成→P28

※34～38 ページに学習プリント等を掲載

高等学校第1学年保健体育科（科目保健）学習指導案（例）

- 1 単元名 「現代社会と健康」（ウ）生活習慣病などの予防と回復
- 2 本時について
健康を保持増進するためには、一人一人が健康に関して深い認識をもち、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする必要がある。また、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方に基づいて現代社会の様々な健康課題に関して理解するとともに、その解決に向けて思考・判断・表現できるようにする必要があると考えるため本題材を設定する。
- 3 ねらい
 - ・ がん検診や情報の発信など社会的対策の必要性について理解することができる。（知識）
 - ・ がんの予防や回復に対する社会的な対策について、自分の考えや友達の意見をもとに、方法を見付けたり選んだりするなどして表すことができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 4 本時の展開

学習活動・内容	指導・支援上の留意点	活用した教材
1 これまでの学習を振り返る。 ・生活習慣病 ・がんの要因 ・がんの種類 ・がんの予防	◆小・中学校時代の学習内容を含め前時学習を想起させる。	前時の学習プリントと提示資料
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">めあて</div> がんの予防と回復に対する社会的対策について考えよう。		
2 社会的対策について知る。 (1) 横班で調べる。 1・2班：検診 3・4班：治療法 5・6班：生活の質 7・8班：緩和ケア (2) 縦班で交流する。 奇数班・偶数班で縦班を構成 (3) 全体で交流する。	◆社会的対策として、がん検診、がんの治療法、患者等の生活の質を保つ方法、緩和ケアの4つの視点を提示する。 ◆各班で調べ学習を行うため、タブレットを活用する。 ◆それぞれの考えを深めるためにジグソー学習を仕組む。	がん教育推進のための教材 学習プリント
3 がん検診について考える。 ・胃がん、大腸がん、肺がん、乳がんの検診受診率	◆社会的対策について、考えを深めさせるため、視点をがん検診に絞る。	
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">発問</div> 社会的対策の1つである、がん検診の受診率を上げるためには、どうしたらよいか。		
4 本時のまとめをする。	◆各がん検診の受診率を提示する。 ◆本時の学習を振り返らせるために、めあてを確認する。	

- 5 準備
 - ・ がん教育推進のための教材（文部科学省） 学習プリント タブレット
- 6 評価
 - ・ がん検診や情報の発信など社会的対策の必要性について理解したことを言ったり書いたりしている。（知識）
 - ・ がんの予防や回復に対する社会的対策について、自分の考えや友達の意見をもとに、方法を見付けたり選んだりするなどして表している。（思考・判断・表現）

※39 ページに学習プリント（食事バランスガイド等）を掲載

高等学校第1学年家庭科（科目家庭総合）学習指導案（例）

- 1 単元名 「食生活の科学と文化」（イ）生涯の健康を見通した食事計画
- 2 本時について

食生活のあり方と健康は深く関わっており、ライフステージに応じた栄養の特徴や健康に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けることは、生涯において主体的な食生活を過ごす上で必要である。

日本における死因を見てみると、生活習慣病の中でも、がんは死因1位となっており、「がんを予防するための新12カ条」を知り、今後の食生活において活かしていくことが重要であると考え、本題材を設定する。
- 3 ねらい
 - ・ 生活習慣と疾病の関わりを知り、生活習慣病を減らす方法について理解することができる。（知識及び技能）
 - ・ 自己や家族の食生活について関心を持ち、バランスのとれた食事について考え、他者との交流によって考えを深めることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 4 本時の展開

学習内容・活動	指導・支援上の留意点	活用した教材
1 ライフステージごとの食事の特徴を振り返る。	◆壮年期から増加する生活習慣病の中でも、がんの罹患数が多いことを確認させる。	がん教育推進のための教材モジュール2（文部科学省）
2 がんを予防するための有効な方法について知る。	◆「がんを予防するための新12カ条」に入る適語を考えさせる。	学習プリント
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> めあて 生活習慣病のリスクを減らす方法を考えよう。 </div>		
3 食生活でできるがん予防について考える。	◆「がんになった人は生活習慣が悪かった」等の誤解を与えないよう注意する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 発問 バランスのとれた献立を考えてみよう。 </div>		
4 献立作成 食品群別摂取量の目安を活用し、一食分の献立を考える。 (1)個人で考える (2)班でメニューを考える (3)全体で交流する	◆誰でもがんになる可能性があることを説明し、誰もが予防のためにできる食事の工夫について考えるよう指示する。 ◆食事バランスは既習内容を活かすよう指示する。	食品群別摂取量のめやす 食事バランスガイド
5 本時のまとめをする	◆本時を振り返り、次の実習につなげる。	

- 5 準備
 - ・ 学習プリント パソコン プロジェクター 食事バランスガイド
 - ・ がん教育推進のための教材（文部科学省）スライド教材モジュール2（日本のがんの現状）
- 6 評価
 - ・ 生活習慣と疾病の関わりを知り、生活習慣病を減らす方法について理解し考えている。（知識・技能）
 - ・ バランスのとれた食事について考え、意見を言い合い、他者との交流によって、考えを深めている。（思考・判断・表現）

高等学校第1学年特別活動（ホームルーム活動）学習指導案（例）

- 1 題材名 「がん患者への理解と共生」（2）ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
- 2 本時について
日本人の疾病での死亡原因の1位ががんであり、2人に1人が罹患している。また、親ががんである18歳未満の子供の総数は約8万7000人（平成27年 国立がん研究センター）に上る。このことから、自分や家族、友人などが罹患する可能性がある。また、高校卒業後、がん患者の方と職場等で共に働くことも考えられる。そこでがん経験者の方の話を通して、がん患者に対する理解を深めることでがんと正しく向き合うことができ、がん患者と共生できると考えたため本題材を設定した。
- 3 ねらい
 - ・ がん経験者の話を通して、がん患者の現状を理解することができる。（知識及び技能）
 - ・ 身近な人ががんになってしまったとき何ができるのか意思決定・行動選択ができる。（思考力、判断力、表現力等）
 - ・ がん患者への理解を深め、どのように接していくのか、考えることや、話し合うこと、発表する学習活動に積極的に取り組もうとする。（学びに向かう力、人間性等）
- 4 本時の展開

学習内容・活動	指導・支援上の留意点	活用した教材
1 本時の内容を確認する。 ・担任より外部講師を紹介		
めあて がん患者の心境を理解し、どのように接すればよいか考えよう。		
2 がんについて振り返る。 ・がんの要因 ・がんの種類 ・がんの予防 ・がんの治療	◆小・中学校や保健の学習内容を振り返り、がんについて確認する。	がん教育推進のための教材 学習プリント
3 がん経験者の話を聞く。 ・どのような心境なのか、どのように接してほしいのかを知る。	◆がん経験者がどのような心境であるのか、経験ふまえて話をする。	
4 身近にいる大切な人が、がんになってしまったとき、何ができるか考える。 (1)個人で考え、学習プリントに記入する。 (2)全体で交流する。	◆がん経験者の話をふまえて自分の考えをまとめさせる。	
発問 卒業後、就職先や進学先でがん患者の方がいた際に、がん患者の心境を理解し、接していけるようにするために、今からできることを考える。		
(1)個人で考え、付箋に記入する。 (2)班で意見交換をし、模造紙に付箋を貼っていく。 (3)班の意見をまとめ、学習プリントに記入する。 (4)全体で発表する。	◆それぞれの考えを交流し、深めるために KJ 法で行う。学習プリントに班の意見をまとめる。 (カテゴリーを各自の実践に向けた視点を見出すことができるように班おける交流で明らかになったカテゴリーを共有する) ◆発表を踏まえて、考えさせる。	学習プリント
5 本時のまとめをする。	◆本時の学習を振り返らせるためにめあてを確認する。	

5 準備

- ・ がん教育推進のための教材（文部科学省）・模造紙・付箋・マジック・学習プリント

6 評価

- ・ がん経験者の話を通してがん患者の現状を理解している。（知識・技能）
- ・ 身近な人ががんになってしまったとき何ができるのか意思決定・行動選択を述べている。
（思考・判断・表現）
- ・ がん患者への理解を深め、どのように接していくのか、考えることや、話し合うこと、発表する学習活動に積極的に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

